新板
繪入

御伽太平記

二之巻

特別
へ13
4337
2

ヘ13
4337
2

化

二十時寛政八年

天保元年月吉日

上州前橋井桁屋

〈2003-013〉

沸伽奈平記

二之巻

目録

第一 生涯の律義深くんぶ縁の釈文
大事の名誉と持る振さ元玉窓
勝て甲にはまらのるいたわのる好
邪の五欲に義て迷るる行

京都府立図書館

第二　武義より極楽へ御けがら
所々の名香ふり焚くこと陳保
醫者の批判い新中しこと野の打薬
なまこと移く実に石より堅い鉄鞭

第三　耳より出へ肝の法ぐわ〳〵三藩ぐい底
茶女の影しうつくうる法元の新
祝言ハ宮海波静こ舞の和音
仏説者〳〵りん〳〵遠く法子一生

一生涯の法義ハ法ぐんぐ法度の新文

武ねのんを用ひるに法の法あり上にハ道二ハ武ハ兵ハ法に知法
道とハ仁義礼智信ハ法ハ地の和合といハ士農工商ハ法。智
法ハ人の欲のくりことと法学ハ法ハ地の利とする事。学と用る
に地の利と法学ハ学るの弱門。自生るし仏法れなのづく〳〵今ハ
ハ学と毎へざる武ねハ出と保天下と安んぜる事ハ法ハ法ハ
強金の武ねハ金ハ強ハ金ハ強ハ法と法と交ふ
がらの事ハ法ハ石伝のんのを法ハ法ハ武ハ武ハ武ハ武ハ
おのづく〳〵法の事ハ法学と入る名法ハ問ハ法ハ法ハ法ハ
て法の法ハ法ハ法ハ保元の軍に対法ハ法ハ法ハ世と法ハ法ハ
宗教ハ武ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自物語の言葉にて知りたんなる事ども侍りてなん。
嘲侍りとぞ。されば初の軍に新羅天皇と高麗の王へ流るゝの沙
弥も知れど弱書にてくく討死せるとぞ。赤松親王の三男
加賀の太郎友宗は志賀の浦にて世を捨てしと中ぐ世の知れぬ者
八幡宮の御ぐ侍りしに祈りて八万の像のうちに神代く南蛮の
鑄業と祈り揚帝深宮の深く寄せて侍りしもん
ぞ。ペーうどべ八万よりはるかにまさりて。毒この中に孫子兵法
論じたる多し。八万部の中に初めに三教の新しく始まれる一家宗に
七一門宗門おのへ宗にして第一家業とお続ける者多しとぞ
仏教宗の名筋と能宗へ人は侍り。異国にいとく家職なん昌にて
さんと侍りて五五の本の書の内に三教指帰と侍りは花
とぞ侍りて。ぞ侍りの門宗門あやぐれそれいうるい

神号八万部の内自然に侍るひ中に桂岩八幡宮の
の武士は五五の名字、出家の事。さもしばしばもあるべて昔の
緒尾の名字と別て氏を氏にして本の楽。言葉に侍るはいとの小
宗の宗にて。見慣れに八万部八幡宮の和歌にてしりませ。低所にて
ゆゑ侍る。孫子六巻小脇立にて伯とゆふ門宗門多の勇八幡宮にいれに
出世して車にて乗り結搦る地と見にまゝひ家に栄光に侍りとも。代
孫子六巻代くの家業、緒尾指帰の名人と侍りて世を名と
孫子八幡宮の出家世に侍りは。三教の家の有
して武士にてまゐられ侍る起と不者の者にて侍る
か文宗は指帰の寺の場に侍り清社の門宗にて。さて八幡宮六巻の方
に新でないの。社の内に出家の所。新書と指帰とい宗門にて三教の家。
うるぞ正しの社と社と寺の場に世の清社の中にいたるる

見ごろいなるこの位でもあるべし。眼一角と云ふ事を聞きて吟味されば。
門弟私ごとこそ。我法眼の身の位方なるべし。云ふ事を聞いぬ。
人は三界の大事。生死の苦界。貴賤ごとに都で云ふ事。
の移りとそで移りまして吟ふも同じ。門角人名の位よりこそ。
武士は云ふまでもなく。名を揚げ。くいもみも入りまぬ。今日は今おやこ
の縁と切て。果は人名を云ふまでもなく。法師堂は所をつゞ。
所まりの事に異なあて。私たれば。お稚人名大の眼と角とをてたれば。
初よりは自ら。ゆるに縁やの名角ごとにてらあつらいおやぢめ代く。
陸奥と深さを云ふ。新命くこそ。
者。ひとは門弟名ごとのまいたまちは。今こそも事ごとひ門おとり退ちひ
て記ひて。例の事の大知ひてあるしひ。今合侍ひ名。法師文
あるとこ門ごとに見根ごくこ門弟法師ごくこそ人へぬ

二

我親ごとり拾遺に祖ハめけ
力とて仁と仰る者ハ覇ごとり。墨とんてくる法者ハ先しごとやお稚人
名京澄日和極異に世。教名の妻恋ごと恋ごとおごとりるあつめ塚中い
ごとも盃のごとく。法線大教師の山法ごく。主異ごとこめ歴
いごれかこの拾ふ。法師塚の事ごも見ごとハ自ごとかるごもごと
やごもごもごとごとる。法ハ十二月十五日の月にて毎日ごとの人民
貴人ハごとごとひて小僕ごと紙布ごとひ。武人自身草紙布と肩ごと
ごとて。雪の中ごと蓮屋ごとの因本務の点ごとてごとごとごとやごと
ごとごとごとやごとごとごと

言の中へ行のる場をうしに結と出と紙の上へ
美や紙と書て眼にる事の上へ一ぱいに行つる毒物者と云ふ事の一の
本舎も切合ぐ平は脳同志のの身ね薬づつ一ひとりもせていとね
ふりり。釣ふ喧を苦ふ小役うよ拍よ少役ふとしつて生りて。
内へ引ぐりてしやうくとぞ弟子の汚点の湯して是と法して述のことに
体んさわぐ今移ると大名も及ばぬ楽しとぞ家の自慢と為て
ア丁て。けんの楽ミハ笑ふの絶い義ふ生に二体係胡弓琴ごと
弾ず食ふ相と合て今部の費といとりと酒飲んで拍ぶ彩四点
事ハるい会ふ。今内の人荒鼠女武のやうる生笑ハ。ぞるのなる
雪人ふる移ぶ四日い事といふ踊ふふいるい事ふ定せん。さた是
楽ふとふして。部屋ある云ふ庭と中あぐ身拍ぶ気して盃と信ぬ迷係
の一助ずんべ。いふる笑いあちぢも。後今のへふぬ人相にいんより生

さんざめして。世間多し。是とるに醫者のこと多くは
峰天皇と石佛合て仕る事にて。学問も軽かるべし。石学の医ちなして侮
かるべし。学問して石理に達せざる醫ゝ無。小ゝ是。庸医也。醫の
行ひ。傷寒論にて。薬と金匱と事の多くは。脳髄の病と治り
事。十の内二三治して。其外は。薬と併まで共なる病多し。也合
長者あ波井。医の下ゝ医者。藤治して治ゝ。ゝ細新て一入肩
脇とゝらげ出ぬ。新山くひ和ゝと。廣方毒の侍中の卿ゝ侍ゝ
ゝゝ人ゝ。ゝ。ゝ。

海ゴ嵯今の初ごろ。薬耳を入て用ゆ。ただ。伯ゴ今時のものなり。
耳ゴ高山を行ばつても乏ばぬ事しく。是下に記るに別に著す。
ゴ。ぞの子を如事いなるしぼ。ぞ小ゴ面くの毒今。病熱の熱る
事ハ耳ゴ感芳にもうるひ。ぞ毒を貯て。遠薬ごうこひるれ。ぞ病
ゴ。ぞ。ぞ。ぞ

と成て此方へ立て居る所の百姓くれば、とうとうと成て、一方の内国にて立人となる面へ出て、ぶつ[illegible]の[illegible]の[illegible]は、[illegible]酒[illegible]なるに[illegible]ば[illegible]ぶつ[illegible]と[illegible]年は[illegible]ぶつ[illegible]。面眼[illegible]るし[illegible]ば[illegible]に[illegible]池[illegible]に[illegible]と[illegible]の[illegible]書[illegible]て伺[illegible]年へ[illegible]て[illegible]や[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]。[illegible]詠[illegible]よ[illegible]門[illegible]に[illegible]ば[illegible]の[illegible]年[illegible]は[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]と

いやあ
いやえあ
ちゃちゃでんの
ぶぐくの曲
よいや
うきげんこと
ちゃ

雖ども、なほ、諸事と、ものなれば、ものなれば、
ものなれば、ものなれば、ものなれば、ものなれば、
ものなれば、ものなれば、ものなれば、ものなれば、
ものなれば、ものなれば

一曲仕り義経と云せて、ゑん相せんとしてきるれば、格段ひくとそれ、ゆ
の様子義経まする。心交へ家の公事にて、ふ調法する家と
ぢ強ひられんとなりては、ゆるびんじまを迷にまりてぱちとまるまちの姫
男とかるまれうぱ、うぱ、ぐ、この者の姫をやうせんぱ、ひまでん
ぐりまもつと。ぱうりの中ふ性れこ体線者とわてゑ、検
段ぐ侍よ出て、ゑぱ、ゑとぬてこ出ぱ、ゑ、ゑ、ゑ

ゑひげもなく坊さまけられて。びつくりして。ぢいさんとせーがこたへて。もいそぎ。ぢいさんとせーが。ぢいさんとせーがこたへて。ぢいさんとせーがこたへて。ぢいさんとせーがこたへて

[illegible]

二之巻終

○此頃ゝ世ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

絵本置而来学　全二冊

他者過時老人

[illegible]の[illegible]世[illegible]
[illegible]
二日より[illegible]

[illegible]

[illegible]